



能代高校東京同窓会会報 第 17 号

# 奮え松陵、我が健児

発行日：平成 19 年 9 月 1 日  
発行人：能代高校東京同窓会  
責任者：太田 勝 治  
編 集：広報委員会  
印 刷：大森太田印刷 (有)



## 青春の碑 (抜粋)

此処、樽子山は秋田県立能代高等学校誕生の地である。大正十四年（一九二五年）の創立から昭和四十九年（一九七四年）高埴の地に新校舎が移転するまで、厳しい戦争を挟んだ激動の五十年間、創立時の能代中学校から能代南高校、そして能代高校と校名を変え、同窓生約一万二千名の血潮たぎる思い出の場所である。

(写真提供 第四十五期 袴田邦夫氏 一九七四年撮影)

## 平成 19 年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成 19 年 10 月 13 日 (土)

【年会費】3,000 円 (お振込みいただいた方を除き、当日受付で受領いたします。)

受付 12:00 ~

総会 12:20 ~

【懇親会費】男女共 7,000 円 (今年度から各割引制度を導入しました。詳細は別紙を参照して下さい。)

講演会 13:00 ~

講 師 若松正雄氏 (第 27 期) シダックス副会長

【出欠】同封のはがきに記入して 9 月 19 日 (水)

懇親会 13:30 ~ (アトラクション等多数)

までに投函して下さい。

【場所】アルカディア市ヶ谷 (私学会館：昨年と同じ場所です) (詳細は別紙参照)

## うれしかったこと…

能代高校東京同窓会会長 太田 勝治

月日の経つのは早いもので、去年の総会からもう 1 年が経ちました。今年も喜怒哀楽がいっぱいあった 1 年でした。その中からうれしいことを二つ取り上げてみます。



【その 1】事務局には同窓生からいろいろな意見がありました。それらはどちらかという誤解に基づく疑問点や質問的なものでした。幹事長はそれらに対してはメールや手紙などで迅速に、また懇切丁寧に対処しました。お陰様で誤解の解けた多くの同窓生からは感謝と喜びの声が届きました。本当にうれしいことです。このように地味ですが、誠心誠意、素早く対処したことが、将来に対して同窓会の興隆の大きな栄養素になってくれるのだと思います。

【その 2】今日の総会に向けての各委員会の積極的な活動には深く感謝致します。また、ブログやホームページでの活発な発言や意見交換、五日会や野球会等の同好会の活動等…。さらに今年度は「樽子山会」「東京探訪の会」「能高釣クラブ」が発足しました。これもうれしいことです。「樽子山会」は樽子山の旧校舎で学んだ同窓生達を中心となって発足しました。発起会当日は先輩パワーが充満していたそうです。今年の総会にもその熱意が反映されるといいですね。「東京探訪の会」は、都内の旧所・名跡などを訪ねる会です。第 1 回目は「皇居東御苑」でしたが、素晴らしい名園だったそうです。また、釣りの好きな人は是非「能高釣クラブ」にも参加して下さい。

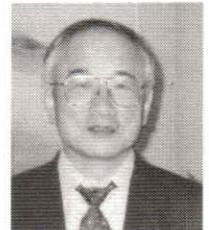
東京同窓会の中には、色々の趣味や特技等を持っている同窓生が沢山おられるはずで、囲碁・将棋、ハイキング・山登り、和歌・俳句、歌や踊りや楽器の演奏、落語や手品、デジタルカメラ、その他いろいろ…沢山の会ができそうです。あまり気負わずに最初はざっくばらんで結構じゃないですか。どうぞそれらの同好の士を集めて多くの同好会を発足させて下さい。最初は少人数でのスタートで結構です。コツコツと回数を重ねていけば、参加者も増えてくるでしょう。この同好会は、いずれは我が同窓会の発展を支える大きな力になってくれると思います。

これからもうれしいことが沢山ありそうで、今からうれしさが込み上げてきます。

## 東京同窓会の皆様へ

能代高校同窓会会長 田中 仁純

東京同窓会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。



今年は昨年の大雪が一転して雪の無い年明けを迎え、どんなにか春の到来が早いのではと楽しみにしておりましたが、桜の開花はほぼ平年並となりました。

この原稿を書いております 6 月中旬過ぎ、入梅前、能代でもっともさわやかな季節を迎えています。ニセアカシアが芳香をはなち、木々の緑は濃くなり、海のおだやかなたたずまい、こんな気候が年中続けば住む人も少しは増えるのにと思ったりしています。

しかし、街の中は、通学生の時間帯を過ぎると老人のみが歩いているという典型的な少子高齢化社会の景観を呈しています。このような環境で母校の在学生達は刺激が少なく積極的に欠け、学力が低下しているのではないかと、貴会の役員の方から心配する声が聞かれました。

母校は学級減にかかわらず進学率は過去最高といわれる成果をあげていると聞いております。

また、OB 及び地域の方々から講演をしていただき、将来に夢を託し自らの求めるものをしっかり持てるように、井上校長の Will Project の提唱と共に実践しており、心強く感じております。

今後も多才な人材が豊富な東京同窓会の協力を得て、さらに充実した教育環境ができることを期待しております。

昨年ホームページを立ち上げることができ、小林勝平氏の努力で充実した内容になっていることはよろこばしい限りです。今期は課題であります「事務局」の設置が目標です。

能代市は合併 1 年を経過して、9 月 29 日の開会式から 15 日間開催される秋田国体「わか杉国体」が話題の中心です。昭和 36 年から 46 年ぶりに開催されるわけで「まごころ国体」の思い出が臉に浮ぶ同窓会員も多いと思います。

今年の同窓会総会は 9 月 21 日 (金) を予定しております。東京同窓会の皆様にはぜひ一人でも多くご参加下さいますようお願い致しております。

最後になりましたが、東京同窓会の益々のご発展と会員皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

## 野球部、甲子園出場の思い出

第29期 石川 正順

母校の硬式野球部はこれまで4回の甲子園出場を果たしている。甲子園出場は一つの快挙であり、普段は母校とは疎遠になりがちなOBに、不思議な、一種独特な力や誇り、幸福感を呼び戻してくれるものがある。

私は一卒業生に過ぎず野球部に在籍したこともなく、特に関連があったわけでもない。そんな私が母校の甲子園出場に関わりを持つことになるのだから人生の奇縁と言うべきだろう。

時は30年ほどさかのぼり、昭和52年の春、母校野球部は千葉県房総の地にキャンプを張ったのである(OBで元参議院議員の佐々木満氏のご縁に連なり実現したもの)。

キャンプ地は私の自宅と車で10分位の距離だった。このキャンプに2人のコーチが帯同しており、この2人が私と同期だった。このご縁により何かとお手伝いをさせてもらうことになった。

この年、2年生で左腕の高松投手を擁して念願の甲子園出場を果たした(当時は各県1校の代表ではなく西奥羽大会を制しての出場獲得)。喜び勇んで甲子園まで駆けつけたのは言うまでもない。

翌53年の春も千葉県でキャンプがあり、この年から旅館の手配、グラウンドや体育館などの練習場所の確保等に携わり、夜は旅館に泊まり込みで生活を共にしたものだ。

この年、高松投手は最上級生となり、更にパワーアップし「豪腕・高松」の異名を取り、1試合に10個以上の三振の山を築くほどで、安定感抜群だった(高松は投げる方で一大注目を浴びたが、実は打撃の才能も秀逸である)。この53年も地方大会を制して、2年連続で甲子園に駒を進めている。

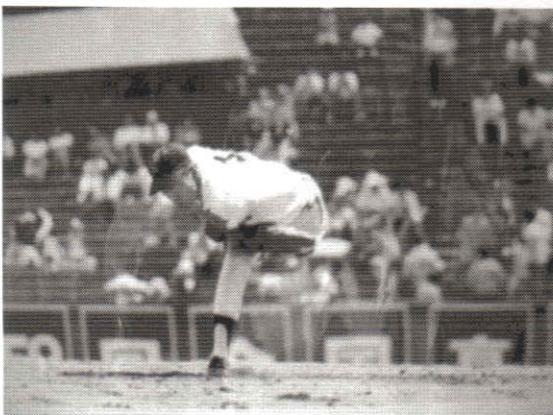
灼熱の甲子園球場で和歌山県代表の箕島高校と死闘を演じた場面は、30年経った今日でも一コマ一コマ目に焼きついている。

30年前の遠い出来事になってしまったが、母校野球部の2年連続「甲子園出場」にいささかのご縁を持たせたことは、私の人生の中で貴重なものと言える。

補	補	補	補	補	右翼	中堅	左翼	遊撃	三壘	二壘	一壘	捕手	投手	監督	部長	能
近藤	田口	市川	大友	大谷	佐藤	平川	石井	佐藤	菅野	佐藤	平川	東海林	高松	太田	金谷	代
亮悦	清司	尚基	幸一	哲士	晃一	温志	弘人	政喜	明彦	浩司	憲昭	直志	久隆	晴隆	高	



母校所蔵のアルバムより↑↓



「創立60周年記念誌」より↓



## 文武両道を実践

能代高等学校長 井上 高廣

皆さんは、タイムスリップして高校1年生に戻り、やり直しができるとしたら、どのような人生を歩みたいと思いますでしょうか？ たった一度しかない人生を最善の生き方をさせ、持てる能力をフルに出しきり、日本や世界を動かす人材を本校から世に送り出したものと常日頃から考えております。



昨年、時間をかけて本校の将来構想を検討いたしました。同窓生からのアンケートや現役の高校生と保護者の意見を多く取り入れた将来構想になり、「Will Project」として完成いたしました。これについては後で詳しく述べることにします。

さて、このような中で今春の卒業生は、進学の中で過去最高とも言える結果を出すことができました。国公立合格者がこれまで119名が最高でしたが、今春は121名の合格者が出ました。東大1名、京大1名、一橋1名を含む難関大学といわれる合格者が9名となっております。特に校是である文武両道を実践した生徒が多いのも今年の特徴です。生徒たちが大学に合格したことに満足するだけでなく、高校生活で培ったものを生かし、あらゆる方面で活躍しようとする気概を持って努力精進し、さらに一層大きく成長してくれることを期待しています。

また、部活動の面ではインターハイ出場は、体操部(団体、個人)、柔道部(女子1人)と少々寂しいのですが、地元秋田で開催される「わか杉国体」の選手としても活躍が期待されています。文化部の活躍はこのところ華々しく、無線部、放送部、囲碁・将棋部が全国大会に出場権を獲得しております。

硬式野球部は昨年秋の30年ぶり全県制覇で、春は否が応にも期待が膨らみましたが、春季地区大会2回戦でまさかの敗退という結果になってしまいました。これまでは春先に良い成績を出して夏には尻すばみの感がありましたが、これからは、夏の甲子園予選で力を全開できるように頑張っていきたいものです。「文」で最高の成績を出し、甲子園を手中に収めれば文武両道の能代高校の面目躍如です。

東京同窓会の皆様には常日頃より多くのご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。益々のご発展と、会員の皆様のご活躍を衷心より祈念申し上げます。

## 大きな夢と高い志を

～ Will Project について ～

能代高等学校長 井上 高廣

本校が今後どうあるべきか、昨年度9ヶ月をかけて将来構想を検討いたしました。結果としてできたのが「Will Project」です。

私の夢は、能代高校から首相やノーベル賞を目指す生徒、日本や世界を動かすような生徒を育てたいということです。

### Will Project の目的

1) 新しい取り組みによって「夢」と「志」を持たせ、自己の可能性に挑戦する気概を持った生徒を育て、地域、日本、世界を揺るがす、有為な人材を社会に送り出す。

2) 進学向上・学力向上のために考えられることは大体行っている。これからさらに飛躍的に伸ばすには、将来の「あり方、生き方」を考え、そのためには今何をしなければいけないかを自覚させ、主体的に学び活動する生徒を育てる。

3) 秋田県第5次総合整備計画に伴い能代市内の5校が3校に統合されるに当たって、単独で残る本校も将来を見据えて、どのような学校になるか確認する必要がある。

能代高校は、創立82周年を迎える伝統と輝かしい実績を持つ学校であり、地域の優秀な生徒たちが多く集まってくる進学校です。ただ大学に入学すればよいというのではなく、しっかりした目標を持って大学に進み、有為な人材として活躍できるように育てる責任があると考えています。

校長という立場柄、地域のいろいろな会に参加する機会が度々ありますが、どのような会合に行っても能代高校の卒業生が中心的な役割を果たしております。しかし、佐々木満先生が勇退されてから久しくなり、本校出身の国会議員はしばらくおりません。国政に携わる人材と地域をまとめる人材も育ててほしいものです。仁賀保町(現由利本荘市)にTDKを作った齋藤憲三氏のような世界を代表する企業家、技術者も出てほしい。秋田県は知事も教育長も県南地域の出身者で、その他にも県南地域に様々な面で押されています。能代市出身でノーベル賞候補の人がいるそうですが、本校出身者ではないそうです。

本校出身者には全国的に活躍している方が数多くいらっしゃるのですから、そういう方々に来校していただき、これまで得た体験や知識をもとに指導

いただくことにより、生徒の生きる目標や勉強する意欲を喚起し気概を持たせて大学に送ることができると考えます。

本校は、先輩諸氏もそうであったように地域の優秀な生徒の集団です。様々な分野で活躍できそうな能力の持ち主が沢山いるのですが、実際生徒と面談をすると手堅くごちんまりと生きることを考えている生徒が多いように感じます。理系の1クラスの女生徒15人の将来の希望する職業が看護師10人という結果、2年生233人中、教員と公務員を希望する生徒が合わせて93人もおりました。手堅い生き方は賢いと思いますが、勉強ができて優秀であればその能力を生かすためもっと大きな夢を持ってもよいと思います。残念ながら、そういった生徒は極めて少数です。

### 「夢」と「志」とはなにか

「夢」は、医者になりたい…医者になってしまうと夢は終わる。「志」は、地域の多くの病める人たちのために尽くしたい。自分だけではない、ほかの誰かのためにという気持ち。個人的にこのように定義してみました。

いかなる仕事に就いても、仕事は楽しいことより、辛く厳しいことの方が多いように感じます。辛く厳しい仕事でも、やり甲斐を感じて働けるのは、夢があり仕事に誇りや使命感を持つからではないでしょうか。自分のためだけではなく、社会や地域、家族、ほかの誰かのために一生懸命働くことによって、感謝され自分の存在価値を認め、働く意義、生き甲斐を感じるのではないのでしょうか。

### 取り組み

1年生では、多くの方の話を聞かせることを主体にしていきます。年に5～6回の講演を予定しております。極めて有名な方と呼んで全校に聞かせる場合、クラス毎に2～3人ずつの場合、学年単位でパネルディスカッション形式で行う場合、職業の分野別(20～30分野)で話を聞く場合、学部別に大学教授の話を書く場合など、様々な方法・形式で、大勢の方の話を聞き視野を広げます。さらに、自分たちでも職業、大学・学部・学科を調べます。それらをもとに、最後に自分のライフプランを作ってみます。

2年生は、体験活動がメインです。ライフプランをもとに、自分の希望する大学のオープンキャンパスに参加し、また、自分が目指す職業を見つけてインターンシップし、その職業が自分に適しているのかを確かめます。それらをもとに進学する大学・学部・学科を研究し決定した後、ライフプランを再確認し、生き方・あり方の確認、夢と志を固めます。

3年生では、2年生で決めた目標に向かって強い意志を持ち受験に向けて努力します。

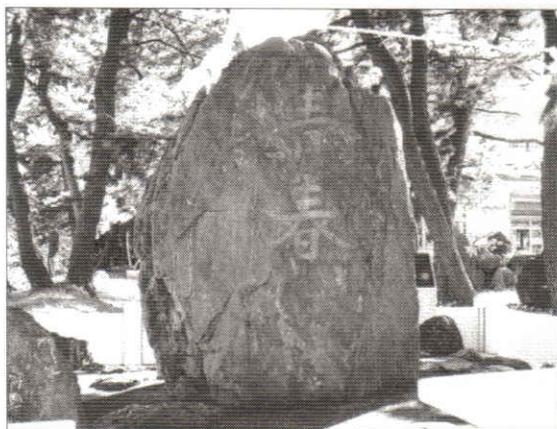
### 最後に

生徒が将来の方向を決め、意欲を持って学習に取り組むためには、大きく分けて3つの道筋があると思います。1つ目は、生徒が教科に興味を持ち、学問的に勉強したいと感ずること。2つ目は、大学に魅力を感じてこの大学に入りたいと思うこと。3つ目は、将来の仕事や生き方から方向を決めること。

我々教員は、生徒にだけ多くを求めるのではなく、指導法の改善をして生徒が授業に魅力を感じて主体的に学習に取り組むように努力しています。生徒から授業アンケートをとり、指摘された部分を改善すべく全教員が研究授業を実施することにしました。1人でも多くの生徒が意欲的に授業・勉強に取り組み、そこから進路が決まることを期待しています。

しかし、これまで、指導法の改善、朝学習、土曜学習、補習、添削、課題、学校でできそうなことは全てやっけて、これ以上の成果を上げるには別のことを考える必要がありました。これまでの進路指導は、どちらかという出口指導が主であったように思います。

このプロジェクトは学校だけではできません。多くの方の協力が必要です。特に同窓生の皆さんには大変多くのものを期待しております。生徒、教員、保護者、同窓生、地域の力を合わせたものこそが、本当の能代高校の力と考えています。今後一層のご協力をよろしくお願いいたします。



### ＜青春の碑＞

能代高校の旧樽子山校舎跡地に立つ記念碑。能代高校同窓会により昭和49年に建立。本紙1ページに掲載した文言が書かれている。平成18年9月、太田勝治・撮影

～恩師インタビュー～ 谷内成治先生

「能代高校生は私の誇り」



多くの同窓生の思い出に残る恩師、谷内成治先生に東京同窓会会報掲載のためインタビューにお答えいただきました。

谷内先生は昭和 48 年 (1973 年) 4 月から昭和 60 年 (1985 年) 3 月まで能代高校に在職。数学を担当されていました。

◇能代高校で印象に残っている出来事や生徒について教えてください。

高校 3 年間、ひたむきな努力の結果、見事念願の大学に合格した時の、生徒達の喜びの表情。又、厳しい部活動 (軟式庭球部顧問でした) にもめげず、良く耐え、試合毎に、ひとまわりも、ふたまわりも、人間的にたくましく成長していく選手の姿。全県大会での個人、団体の優勝や、個人戦でインターハイ出場権を獲得したときの、部員一同の歓喜に満ち溢れている姿等は、胸をうつものがありました。

◇能代高校気質、能代高校生らしさを、どういうところに感じましたか。

生徒達は実に大らかで、屈託がなく、友情心厚く、又、それぞれ鋭い感性を持ち合わせていると感じます。又、自分の掲げている目標に対しては、常に前向きに対応する知性と、行動力を持っている、私が誇りにしている高校生です。

◇最近の先生の近況をお知らせください。

5500 枚余りの LP・CD・DVD を有し、JAZZ 専門のラジオ放送設備を備えたオーディオルームで、じっくりと JAZZ を聞き込んだり、月 1 度の割合で、東京や東北地方のコンサートホールや、ライブハウスでライブ演奏を楽しむ、JAZZ 三昧の日々を送っております。

◇最後に、能代高校生 (同窓生) へのメッセージをお願いします。

自分を信じて、失敗を恐れず、常に自分の可能性に挑戦する姿勢を持ち続けてください。

谷内先生、ありがとうございました。インタビューにあたっては鈴木美千子さん (第 53 期) にご協力いただきました。

\*お話を聞きたい先生、近況を知りたい恩師など、リクエストがありましたらお寄せください。

## 秋田での再会

第 45 期 三浦 洋

6 月 22 日、秋田市への出張ついでに更に 1 泊した。実は同夜、秋田市在住の 48 期野村松信君が幹事役となり、市内在住の私の同期生らに声をかけて「歓迎会」と称して飲み会を開いてくれたのだった。またとない機会だったので、翌日には母校を訪問するという予定も組んだ。

夕方、市内に勤務する池端強志君、信太昭和君、能代の西村省一君と三種町の加藤成君らの同期生に加えて、市内在住の高杉静子さん (ホームページ「秋田 NEWS」は秋田の情報源として有名) の 5 人に野村君と私を加えた 7 人が秋田駅前の居酒屋に集った。

池端君とは卒業以来の 32 年振り、信太君とは 22

年振りである。皆老けた分を差し引けば卒業アルバムのみであるがそれはお互い様、とにかく感激の再会である。また高杉さんとは東京同窓会の HP を立ち上げる以前からの所謂メル友であり、何とこの日が初対面であったが、何となく再会した気分になったのは不思議である。

積もる話だらけの「私の歓迎会」は思い出話が出尽くすのを待たずに、あっという間に 4 時間が過ぎてとりあえず中締めとなり、ここで高杉さんとはお別れし、残る面々は野村君の案内で川反のスナックへと向かった。後日談だが、川反に行ったこと、そこで「青春時代」を皆で歌ったこと、帰りにホテルまで歩いたこと等、本来貴重な思い出となるべきこの夜のことは、デジカメ画像を除くと殆ど記憶に残っていないのは残念である。

翌 23 日土曜日 9 時、野村君が前夜の疲れを微塵もみせず自家車でホテルまで私を迎えに来てく

左から信太、高杉、西村、三浦



れた。能代へ向かう途中、三種町の妻の実家に立ち寄り亡き義父へ帰郷報告をし、その後母校で井上校長先生をピックアップして、予約を入れていた檜山の農家レストラン「星舞台」へと向かった。

レストランで再び西村君、加藤君と合流し、井上校長先生、野村君、私の5人で手打ちそばを味わっ



た。ここ檜山は「どぶろく特区」に指定されているとのことで“どぶろく”を正々堂々飲めるのだが、その場では諸事情により私だけが頂くことになった。

その後、ボランティアで地元の歴史ガイドも務めているという西村君の案内で檜山城址を散策した。地元の歴史をすらすらとそらんじる西村君に皆が大いに感心したのだが、学生時代にその能力を発揮していれば今の檜山納豆はなかったかも知れない…などと考えるのは余計なお世話というものか。

檜山を後にし、いよいよ母校訪問である。母校に到着すると既に職員室には現在同窓会 HP、BLOGの管理者である小林勝平先輩(33期)が我々の到着を待っていてくださった。

挨拶も早々に小林先輩には HP 作成にまつわる歴史的なお話を伺った。現在の同窓会 HP の内容の充実していることもさることながら、かつて赴任された各高校をご自身の



HP 内で継続的に紹介されておられた。これには大変な労力が必要だったと想像するが、今は更に「風の松原案内」の作成に力を入れておられるとのことであり、いただいた手作りのパンフレットの出来栄もまた見事なものである。是非、地元の同窓生の皆さんにも小林先輩の同窓会 HP、BLOG の維持管理のお手伝いをお願いする次第である。

(<http://www.shirakami.or.jp/pinewood/>)

その後、校長先生に校舎を案内していただいた。武道館では壁に掲げられた柔道部の名札の中に野村君や私の同期の名前を確認して大いに懐かしんだが、一方体育館でスパイクの練習をしていた女子バレーボール部の姿を見るに至っては32年という月日を実感した。我々の時代では考えられなかったことだが、今では女子生徒のスポーツも盛んであり、活躍が期待されているとのことである。

更に帰りの時間を気にしながらも樽子山へと足を伸ばした。中和通りから見上げる正面玄関への上り坂があんなに短く、緩やかだったのだろうか。プラタナス並木の向こうに構えるかつての木造校舎を思い出す。我々の思い出をここに留めている「青春の碑」にも初めてお目にかかった。

いよいよ樽子山を去ろうとした時、ふと、裏門からすぐの所にあったタバコ屋はどうなったか気になったので覗いてみることにした。偶然にも店の前には、32年前に能代高校が移転すると寂しくなると言ってくれた“タバコ屋のおばさん”、鈴木恭子さんの姿があった。結婚してから一度お会いしているが、それでも20年振りである。私が名乗って挨拶をすると最初は「(果てどなたでしょう?)」との表情で戸惑いの様子だったが、数秒間の沈黙の後「森岳の三浦さん？」と突然の訪問にもかかわらず私を思い出してくださり、その直後、頬には涙が。「樽子山の裏門に来たら鈴木さんに…」と私も続けたのだが感極まって最後は声にならなかった。鈴木さんは数年前に事故で左目を負傷し治療を続けているとのことだったが、今年78歳になるという“樽子山の母”と思われぬ再会が出来ただけでも、樽子山を訪れて本当に良かった。

今回の秋田での数々の再会は私にとっては一生忘れられないものになるであろう。



樽子山の母、鈴木さんと

## 平成 18 年度 総会、懇親会の様子

平成 18 年度東京同窓会総会並びに懇親会は、平成 18 年 10 月 7 日、アルカディア市ヶ谷において行われました。総会後の懇親会では、日本テレビ「笑点」でおなじみの林家たい平師匠をお招きしてのライブショーがあり、会場は笑いの渦に包まれ、和やかな時間を過ごしました。





## 「樽子山会」が発足しました

第 25 期 畠 豊彦

母校校舎が 1975 年に高埜に移転してから 30 余年がたちました。若い世代には高埜の前の校舎が樽子山にあったことをご存知ないかもしれません。前身である秋田県立能代中学校の校舎が市内樽子山に設立されたのは 1926 (大正 15) 年です。その後、1944 年には火災で校舎が全焼し、1948 年に新校舎が建設されましたが、現在の高埜校舎に移転するまでの約 50 年間は樽子山時代でした (卒業生約 1 万 2 千人)。

現在、能代市内の旧校舎跡には文化会館、中央公民館、図書館等が建っており、一隅に第 15 期生有志が建立された「青春」の二字を刻む石碑が樽子山時代の証人のように厳然と立っています。近年、校歌の一節にある「平和のすがた樽子山」で青春を謳歌した同窓生たちから、懐かしい樽子山時代を偲ぶ親睦の集いをもちたいという声が高まりました。幸い「樽子山会」と称する同期会を続けてこられた第 21 期生 (五十嵐資和氏他約 20 名) が新たな「樽子山会」に拡大発展させることを快諾され、東京同窓会の中の同好会の一つとして新たな「樽子山会」を置くことが 3 月の幹事会で承認されたというわけです。

去る 5 月 26 日の発足会には、14 期の嶋田駿作氏、15 期の吉田信一氏の大先輩も参加され、全員で 19 名が参加しました。私が事務局として発足の経緯について報告し、山縣さんの司会で開会しました。各自が現在や過去の仕事などについて自己紹介し、母校や後輩のために何をなすべきか、今の高校生は何の不自由もない生活のなかでどれだけ自分の目指す志を持つことができているか、自分の進路に希望を持っているのか、それを持たせるにはどうするのかなど、年齢 70 歳前後の同窓生達が自分の青春を振り返りながら後輩達の心の満足度を憂える熱い発言が続きました。いや、もっと憂うべきは郷土の産業や行政のことだ、などと郷土の話題も尽きませんでした。

今回の樽子山会は 11 月頃開催することとし、下記の者を役員として選出し運営を一任することに決定して閉会となりました。「樽子山会」は、旧制能中の卒業生を中心とした会であるとともに、樽子山校舎で学んだ同窓生の親睦会であります。どうぞ、遠慮なく参加することにより先輩後輩の絆を深め合うことを期待します。

【樽子山会役員】会長：畠豊彦 (25 期)、幹事長：山縣輝輔 (24 期)、副幹事長：畠山信孝 (26 期)、事務局：佐々木章 (26 期)



## 修学旅行気分で「東京探訪の会」

第 46 期 吉田真由美

故郷をはなれ、長年暮らしてきた東京ですが、まだまだ知らない面がたくさんあります。「東京探訪の会」は、そんな東京を再発見しようという同好会です。年 2 回の予定で、家族の参加も歓迎です。

第 1 回は今年の 6 月 16 日土曜日、皇居東御苑を散策しました。参加者は 10 人。天守台や松の廊下跡、百人番所など、江戸城の名残を探訪し、ちょっとした修学旅行気分を味わいました。

「都道府県の木」の一面では、もちろん秋田杉をチェック！ちょうど花菖蒲が見頃で、都心とは思えない豊かな緑と花も楽しむことができました。

「東京探訪の会」に興味を持たれた方、どうぞ東京同窓会の事務局までお問い合わせください。

第 1 回・東京探訪の会参加の皆さん



## 爆笑！能球会参戦記

第 46 期 齊藤 靖雄

皆様、はじめまして。齊藤と申します。

さて、去ること3年程前、三種町出身のS原先輩の勧めを受けまして、能球会に初参加させていただくことになりました。

緑まばゆい芝生のコース・青い空の下、白球を追う楽しい時間を想像しておりました。

失礼があつてはいかんと、早速クラブを買い揃えて練習をすれば、そこそこボールは飛ぶではないか。藍チャンも、さくらチャンも、丸山君も、ウッズ君も、まあこんなものかと。

さて皆様、実際のゴルフは難しいものです。球なんか、金輪際狙ったところに飛びません。否、前に飛びません。池があれば池に入れ、林があれば林に打ち込み、優しいキャディーさんに「左側がOBですよ！」とアドバイスを受けたなら、迷うことなく左へ大飛球です。

寛容なるO塚先輩をはじめとする諸先輩の怒声を背に浴びつつも、ああ、なんと楽しき哉、能球会!! 開放感と笑いに満ちたゴルフよ。

普通は18ホール、1日で10km程度の歩行距離のようですが、初心者ゴルファーはジグザグ、ジグザグのハーフマラソンといったところでしょうか。走りますよ～私は。

しかし、なんと楽しき哉、能球会!!

さあ皆様、一緒に走りましょう。ダイエットしましょう。ゴルフを始めましょう。

能球会は、さながら高校時代の球技の時間よろしく、皆はつらつとプレーしております。必ず楽しいです。何せ、能代衆の集まりですから。

ちなみに今年のスタート前の記念写真を載せました。ハハッ、まだ走る前ですから、笑っております。



私と一緒に走りたい方は幹事(46期石井喬)が事務局まで。

## 「五日会」について

第 49 期 田村 盛仁

「五日会」とは、能代高校東京同窓会の中での青年部の集まりです。2年前に立ち上げた際、最初の打ち合わせをしたのが1月5日でしたので、その日を記念して「五日会」と命名しました。年に6回の定例の飲み会で、親睦と情報交換をはかっています。毎年、新年会、花見会、納涼会などを行なっております。

現在は、カリスマ的会長の石井喬さん(46期)を中心に、約40名の参加者がいます。特に最近は若い年代と女性の参加者も増え、ますます楽しく、活気付けております。

今後の展望としては、当然ながら基本的には若手同窓生の親睦と情報交換の場としてその裾野を広げていき、将来的にはこの五日会からさらに趣味のサークルや文化的サークルなどの集まりができていっても楽しいかと思っております。

### 能高釣クラブ発足

8月25日に第1回実施(リバースポット早戸)  
主に溪流釣り、山菜採り、バーベキュー、温泉等  
連絡先;第41期小河範也

### ※同好会(サークル)を募集※

同窓生のさらなる親睦のための同好会について、提案や希望がある方は東京同窓会の事務局(菅原)にご連絡ください。軌道に乗るまでは、事務局も協力したいと考えております。

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理  
きくち

第43期 菊池忠夫



〒110-0005

東京都台東区上野6-6-4 デュークビル1F

JR 御徒町駅より歩いて3分位

電話 03-3839-3382

e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地(藤里町)出身

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>

## 第 6 回 24 期首都圏同期会

### 第 24 期 山縣 輝輔

2006 年 11 月 11 日、六本木の“国際文化会館レストランさくら”にて、第 6 回能代高校 24 期首都圏同期会を開催いたしました。

今回は多くの人が都合かず出席者は 8 名でしたが、紅一点栗生沢さんをはじめ多士多才で、話題の豊富な和やかなひと時を過ごさせていただきました。庭園が美しく、おいしいフランス料理と 1990 年産の赤ワインを味わいながら、ボランティア、趣味の話、碁の天狗話、懐かしい恩師の話題等時間の経つのを忘れ、幸せなすばらしいひと時を過ごさせていただきました。

今回出席者が少なかったので、アンケート（約 30 人）をとった結果、次回は 2007 年 11 月 17 日（土）12:30 から、東京で開催する予定ですので、同期生をお誘いの上、万障繰り合わせ、たくさんの方にお会い出来るのを楽しみにしております。



国際文化会館の庭園にて  
後列左から金子、金野、今村、蓮沼、畑江  
前列左から田久保、栗生沢、山縣（敬称略）

## 逗子で泊まって鎌倉へ

### ～ 25 期同期会～

### 第 25 期 島 豊彦

今年の同期会（55 会）は、2 月 17 日に湘南逗子の KKR 松汀園で一泊し、翌日鎌倉見物に出かけました。

参加者は男性 17 名、北高出身同期 7 名の 24 名でしたが、能代から落合士郎、浜松から田中秀、藤琴から田中一男が遠路から元気に参加しました。落合君は、久しぶりに懐かしい能代弁を振りまき、皆を楽しませてくれました。

早朝、古い木造宿の廊下に点々とローソクが灯っているのが優雅な宿と感心したら、全館一時停電のせい。停電も場所が変わればときには悪くないものです。

鎌倉駅から江ノ電に乗り換え長谷で下車し、まず長谷観音詣をしました。横須賀線が通るまでは長谷が鎌倉の入口だったようで、鎌倉時代から門前町として賑わったところでした。

本堂の十一面観音立像、宝物殿、弁天堂などを見てから露座の大仏とご対面に向かいました。頭部にいくほど大きめで、やや前かがみに下を見ている大仏は、国宝だけに迫力がああります。与謝野晶子が「鎌倉の御仏なれど釈迦牟尼は 美男におわす夏木立かな」と詠まれた大仏さんは小雨のなかやや物憂げに座しておられました。

昼頃となり蕎麦屋で休憩となり、やや寒かったので熱い蕎麦が美味しく、門前通りの和菓子屋でお土産を買ったりして、散策再開。川端康成記念館、吉屋信子記念館前を通り、瀟洒な住宅が建ち並ぶ笹目町を経て、門註所址碑近くの御成小学校前に着き、その門構えの立派さに驚きました（看板は高浜虚子書）。

最後は駅西口に近い大きな喫茶店（横山泰三のアトリエがあったところ）でコーヒーを呑み、解散としました。鎌倉在住の秋林君の案内はコースも説明もよく楽しい鎌倉見物ができました。

\*\*\*\*\*

前日、鎌倉駅から衣張山を経て逗子の披露山公園に至り海岸へ下って松汀園まで 3 時間歩いた健脚の男女 7 名がいたことを付記しておきます。



### 新橋で同窓生に会える店

《お昼には妻とらちご飯に  
焼き飯か煮飯が一品ついたら定食が人気！》



おいしい酒  
と肴の店 新橋「和作」

第 36 期 加藤 和 海(能代市新柳町出身)

新橋駅前ビル 1 号館  
(蒸気機関車の反対側の駅ビル 1 階)

TEL 03-3575-1756

## 樽子山を訪ねて

第15期 吉田 信一

この春の帰省時に、母校の樽子山を訪ねた。60年前前は細かったプラタナス(鈴懸)が直径40センチもの大木になっている。昔と変わらないグラウンドの桜の下をしばし逍遥し、往時をしのいだ。

「樽子山会」での話題の一つを紹介する。人生へのスタート点である高校時代に、より広くより確かな世の中の情報があれば、どんなに助かったか。進学や就職に、より選択の幅ができたのは確か。現在は情報化時代ながら情報の質と量は全て同じではなく、特に地方にはこの傾向が強い。この為、東京の某高校で開かれている「ようこそ先輩、OBセミナー」がN紙で採り上げられた。教養講座の位置付けで、各界、各分野で活躍する、或いは活躍した卒業生を講師とする教室ゼミ。対象は聴講希望生徒、質疑応答込みの2時間、講師料なし、等々。ふるさと納税が論議になっている昨今、母校への感謝、関心、願いを抱いている能高卒業生は非常に多く、「樽子山会」もその例外ではない。

能代に滞在中、五能線と八郎潟方面へのドライブに同乗し、沿線の人的風景が都市型へと変貌しつつあることに驚いた。十五里行軍の昔の田舎の風景はどこにも存在していない。清潔で機能的な地元物産直売ハウスが点在し、この中で土地の農村婦人連が嬉々としてサービス満点の接客販売をしている。世界遺産白神山地と中央を結ぶルートの中でも、くるまの比重が圧倒的に強くなった。この結果、旧能代町を飛び越えての、沿線エリアと中央や他都市との人的物的交流が増え、精神的にも感覚的にも都市化現代型現象が起きつつある。

そば、山菜、佃煮などしこたま買い、クール宅急便で自宅へ送ってもらった。

映画への熱い  
思いが結んだ縁

第61期 佐々木亜希子

子供の頃からの夢だった映画を作る仕事に就き、プロデューサーになって数年がたちました。今秋11月3日全国東映系にて公開の映画「オリオン座からの招待状」(原作:浅田次郎 出演:宮沢りえ・加瀬亮・樋口可南子・原田芳雄)はそんな私にとっ

て、運命というか感慨深い作品となりました。

まず、大先輩である能高同窓生の吉田順さん(53期)にお会いした事。さらに、この映画は配給・宣伝を吉田さんがいらっしゃる東映という老舗の映画会社にやっていただく事で、秋田も含めた全国で公開されるという事です。

ちなみに、能高の同窓生に仕事を通じてお会いしたのも初めてです。郷里が同じとか、ましてや高校が同じというのは、なぜか親近感がわくといいですか、仕事にも気合いが入るといいですか、良い意味で緊張感が高まるものです。卒業したての若い頃などは、なかなか故郷を振りかえる気持ちも薄かったのですが、年齢を重ねるにつれ、ふるさとへの思いや愛情は強くなっています。故郷の事が良いニュースで語られたりするだけで、うれしくなります。

今までプロデュースした主な映画作品は、いずれも規模が小さなものでした。「イン・ザ・プール」(出演:松尾スズキ・オダギリジョー・田辺誠一)、「亀は意外と速く泳ぐ」(出演:上野樹里・蒼井優・要潤)、「天国までの百マイル」(出演:時任三郎・八千草薫・大竹しのぶ)などは、秋田で公開されなかったものもあり、いずれも、すぐビデオになるというものばかりでした。映画の作り手からすると、ぜひ映画館で、大きなスクリーンで作品を観てほしいと思います。

本作品は老舗の映画館を守り続けた夫婦の純愛を描いた作品です。優しい奇蹟が作品の随所にちりばめられています。私自身そうなのですが、映画によって救われた事が何度もあります、何かにくじけそうになった時、元気を出させてくれた映画があります。自分でもそんな作品を作っていきたいと思っています。

高校時代は劇場にはなかなか行けず、学校帰りに、よくレンタル店に寄り道し、外国映画などをビデオで観ていました。現在、能代にも映画館があると思いますが、学生のうちから、もっと映画を気軽に観る環境があればいいのになと思います。現在の能代高校には映画研究会などあるのかしら?もしあるならば、後輩達と映画やドラマについて語りあってみたいものです。



旧樽子山校舎裏門 提供:第45期 袴田邦夫氏

## mixi もいいけど、ブログもねっ!

## 名古屋のチーチさん

第 53 期 梶原 禎子

第 29 期 太田 勝治

使用頻度に差はあっても、炊飯器や冷蔵庫同様に家電感覚で、一家に一台 PC (Personal Computer) があるのは当たり前、そんな時代になりました。

それどころか、日常生活において何よりも必要不可欠なアイテムとなっている人も少なくないはず。だって外出先でも、携帯電話からインターネットにアクセスすれば、株式市場もチェックできるし、オークションで落札だって出来ちゃいます。

功罪はさておき、兎にも角にも、気づけば随分とデジタルな世の中になってしまいました。

そんなご時世ですから……

「ブログやってる人、手～あげて!」

「はい!」

……けっこういますよね?

能代高等学校東京同窓会のブログもあるんですよ、見たことありますか???

それが下記 URL、「いつかの同窓会」です。

<http://blog.goo.ne.jp/itsuka-dousou/>

まだ立ち寄ったことのない方も気軽に覗いてみてください。

ここでは卒業生同士が、真面目なことから、どうでもいいこと(?)まで、色々なカテゴリー、様々な話題で、日々コミュニケーションをはかっています。たとえば……

ジャンケンの時なんて言ってた?

「シャイ・シャイ・キッ」だよね?

え?違う??

じゃ、なんて言ってた???

(「ジャンケン大募集」より)

……なーんて具合にね。

こういう軽めの話でも随分話の輪が広がりました。

能代高校の卒業生ならでは、同じ地元ならでは、の、一緒に盛り上がるトピックスって沢山あるはずですよ。ってことで、わたしもごく最近から顔を出してる口ですが、今度は是非ブログ上でお会いしましょう!!

ひゃあ、まんつっ!!!!

(編注:Blogは東京同窓会HPにリンクしています。)

能高東京同窓会のホームページの掲示板やブログの「いつかの同窓会」のおかげで、多くの同窓生が色々と思議な出会いやご縁を体験しているようです。

実は私も興味のあるテーマが出たときは、時々書き込みをしましたが、いちばん印象に残っているのが「名古屋のチーチ」さんとの不思議なご縁です。

「名古屋のチーチさん」はブログでいつも「鹿渡中学校の生徒は優秀だった」と過分に褒めて下さるのです。「名古屋のチーチさん」のお姉さんが鹿渡中学校の先生だったようで、いつもログセのように、褒めていたそうです。

何回か書き込みを読んでいるうちに、「名古屋のチーチさん」は鹿渡町出身で私より2、3年先輩かな?と考えていました。でも、その後の書き込みでは二ツ井方面の出身みたいだし…、実際はよくわかりませんでした(第27期生でした。後で判明)。

私が中学生の頃、公私とも大変お世話になったのがK先生でした。教育熱心で、しつけには大変厳しい先生でしたが、庶民的でざっくばらんで、皆も大好きな先生でした。個人的にも家庭内の事、高校進学のアドバイスなどでも、本当に親身になってくれました。とくに我々同期生達はとてもかわいがってもらいました。K先生とは今でもおつき合いです。

そのK先生からこの春に電話がありました。名古屋にいるK先生の弟さんから「東京同窓会会長のかっちゃんという人とブログで何回かやりとりをしているんだけど、姉さんの教え子?」と聞かれたので、色々話していたらやっぱり私だったという事がわかり、K先生もびっくりして、すぐ電話をくれたのだそうです。

私もそのあとすぐに「名古屋のチーチさん」へ電話しました。名古屋のチーチさんはK先生の弟さんだったのです。いやあびっくりしました。名古屋のチーチさんも本当にびっくりしたようです。広いようで世間は本当に狭いものですね。

名古屋のチーチさんは、今年の総会には先約があり出席出来ないようで残念ですが、今度一度ぜひお会いしたいものです。

東京同窓会ホームページ:

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/>

## とんぼちゃん同窓会ライブ

### 第55期 淡路 和子

「とんぼちゃん同窓会ライブ」に行ってきました。とんぼちゃんは能代高校44期の伊藤豊昇さん(トヨ)と市川善光(よんぼ)さんのデュオ。能高を卒業した1974年にデビューし、77年にとんぼと改名、82年に解散しています。

7月14日と15日に開催されたライブの出演は、よんぼさんとサポート・ミュージシャンによる編成。2006年に上野公園でふたり一緒に演奏したことをきっかけに復活ライブが計画されたのですが、今回は残念ながらトヨさんは「欠席」だったので、「再結成」ではなくファンが久しぶりに集まる「同窓会ライブ」となったようです。

観客の前で歌うのは25年ぶりだったというよんぼさんは、トワエモアの芥川澄夫さんからボイス・トレーニングを受けて、このライブのためリハーサルを積んだそうです。

14日のステージでは、「冬越え間近」(作曲は能高同窓生でのちにオフコースで活躍する松尾一彦さん)に始まり、代表曲「ひと足遅れの春」などを2時間半にわたって演奏。トヨさんとよんぼさんが初めて共作したという曲「生活」がとくに心に残りました。高校時代から歌っていた曲なのですね。

解散後は秋田でラジオ番組を持っていたよんぼさんですが、実はおしゃべりも大好きだそう。藤里で育った頃の思い出、能高ではギター部に入り、のちにチューリップのメンバーとして活躍する宮城伸一郎さんと演奏していたこと、高校時代に吉田拓郎の曲を歌っていたトヨさんとの出会いなども語ってくれました。

そのトヨさんが、なんとアンコールで駆けつけたのです!飛び入りで「思い出せるかい」などを演奏し、高校生同士のような掛け合いも聞かれました。

15日は(私は行けませんでした)「きみまち坂」なども演奏されたようです。

歌うことの楽しさを思い出したというよんぼさん。今後はアマチュアとしてソロで活動していきたいとのことでした。能高東京同窓会でもぜひ歌ってください!

### ◆ 18年度総会&懇親会の出席者(敬称略) ◆

(2006年10月7日 於:アルカディア市ヶ谷)  
**【16期】**熊谷洋三、金丸明\***【19期】**小林肇**【21期】**八杉和男、雄鹿春勝\*、信太吉右工門、五十嵐資和\***【22期】**村井克自**【23期】**矢口裕**【24期】**山縣輝輔、今村宏司、田中徹衛、蓮沼旬**【25期】**栗原俊一、畠豊彦、佐々木胤麿、民谷恒二**【26期】**畠山信孝、八柳昭義、板倉富弥、岩見尚夫、北村祐三、野呂文雄、佐々木高博、近藤俊一\***【27期】**高砂浩、檜森寛、後藤信義、佐藤齊、梅田政男、斎藤秀夫、石嶋喜直、大村真陸郎、山田邦夫**【28期】**石川輔宏**【29期】**太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、笹木広澄、清水武久、鈴木元紀、赤塚鉄男、蓼沼正紀、長谷川哲治\*、宮腰瑞夫**【30期】**熊谷幸夫、宮腰忠\*、田村正宏\*、藤田道義**【32期】**高田政勝、高橋邦治、菅紀夫**【34期】**庄内正、西川廣正**【35期】**干場革治**【36期】**深井学、加藤和海**【37期】**若狭秀巳**【38期】**豊嶋誠**【39期】**菅原渉、大塚進**【41期】**小河範也**【43期】**菊池忠夫、福岡武\***【44期】**庄内俊憲**【45期】**三浦洋、真崎裕、袴田邦夫、大塚雄蔵**【46期】**吉田真由美、斉藤靖雄、石井喬**【47期】**平川均\*、和平忠幸**【49期】**大塚聡子、片谷浩之、松永京子、田村盛仁**【51期】**袴田亘\***【53期】**梶原禎子\***【55期】**淡路和子\***【63期】**福本円**【67期】**小野立\*

以上会員参加者 84名

(氏名の後の\*は初参加者 13名)

その他、家族1名 来賓18名

以上懇親会参加者総数 103名

印刷・製本

ホームページの作成・更新

## 大森太田印刷有限会社

### 太田 勝治

(第29期 三種町鹿渡出身)

〒143-0015 東京都大田区大森西2-1-21  
 電話 03-3765-1779・FAX 03-3766-1228  
 E-mail: ota-p@nifty.com  
 URL: <http://homepage2.nifty.com/ota-p/>

## 平成18年度(2006)収支決算報告書

(平成17年10月1日～平成18年8月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	700,000	623,000	総会費	1,190,000	972,971
会費収入	650,000	289,000	一般管理費	240,000	248,150
雑収入	250,050	295,032			
当期合計	1,600,050	1,207,032	当期合計	1,430,000	1,221,121
			当年度収支	-14,089	
			前年度繰越金	785,518	
			翌年度繰越金	771,429	

★決算期の変更につき会費収入が少なく計上されています。

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

## 平成19年度年会費を納入頂いた会員 (2007.7.2日現在)

(2006年9月1日～2007年8月30日入金頂いた方)

【8期】星信勝【16期】熊谷洋三、金丸明【17期】石川浩之【18期】愛沢鉄治【19期】小林肇、古内保、五十嵐嘉久彌、大塚哲郎【20期】金谷芳郎、小野喬【21期】八杉和男、信太吉右工門、小野茂、雄鹿春勝、五十嵐資和【23期】矢口裕、三田登、清水良二【24期】山縣輝輔、田中徹衛、蓮沼旬、市川友之、金子勝信、木村信逸、豊田誠、畑江道弘、小山黎子、木村喜作【25期】栗原俊一、畠豊彦、民谷恒二、田中秀、平川明三郎、森田恒明、工藤尊久、那須秋男、佐々木胤鷹、岡部忠、町田次男、工藤鉄也、大山定美【26期】畠山信孝、八柳昭義、板倉富弥、岩見尚夫、野呂文雄、佐々木章、佐々木高博、北村祐三、馬場ノリ、神馬清史、近藤俊一、宮腰英彌【27期】高砂浩、後藤信義、梅田政男、斎藤秀夫、石嶋喜直、大村真陸郎、佐藤齊、檜森寛、山田邦夫、坂本廣文、田中郁三、山崎瑞徳、川井芳敬【28期】石川輔宏、須田正巳、穴山勝良【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、笹木広澄、清水武久、鈴木元紀、赤塚鉄男、蓼沼正紀、宮腰瑞夫、中田龍一、大高幸夫、長谷川哲治、嶋田雄右【30期】熊谷幸夫、藤田道義、宮腰忠、田村正宏【31期】大倉報三、城野攻一【32期】高田政勝、高橋邦治、菅紀夫、吉岡良隆、高谷誠、上田公三、磯部博、森喬夫、越前谷明則【33期】工藤耕平【34期】庄内正、西川廣正、斎藤彰悟【35期】干場革治、加賀亮司、横田真理子、石山眞、川添能夫、平川徳道【36期】深井学、加藤和海、青山立子、桜庭均、男鹿谷浩市、能登諦善【37期】若狭秀巳、小野津世子、小林雅夫、今野廣隆、加茂谷純一【38期】豊嶋誠【39期】菅原涉、大塚進、金野峻明【40期】熊沢朝子、小林哲【41期】小河範也、佐藤治【43期】菊池忠夫、渡辺博栄、福岡武【44期】庄内俊憲【45期】三浦洋、真崎裕、袴田邦夫、大塚雄蔵、鎌田泰宏、高松武史、奈良博文【46期】吉田真由美、斎藤靖雄、石井喬【47期】和平忠幸、平川均【48期】渡辺春幸【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁、大塚聡子【50期】伊川千良【51期】袴田亘【53期】吉田順、梶原禎子【54期】佐藤篤規【55期】淡路和子【62期】大高忠勉【63期】福本円【67期】小野立 以上合計 158名

## 編集後記

寄稿の呼びかけに対して多くの方におこたえいただき、誠にありがとうございました。紙上での交流の場として、来年も幅広い層のみなさんに会報にご参加いただければ幸いです。ここから会合での交流、ネット上での交流に発展させてくだされば、なおうれしく思います。(awazu)

旧樽子山校舎の写真、「樽子山会」、そして小生の「樽子山の母との再会」等、偶然にも樽子山特集号となりました。樽子山=高城=母校を思う気持ちは同窓生であれば皆同じのはずです。今後は同窓生として校長先生が提唱する「Will Project」にどのような形で協力できるか、皆で知恵を出し合ひましょう。(miurahi)

## 能代高校東京同窓会 会報 第17号

発行日 平成19年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 太田勝治

編集 広報委員会

印刷 大森太田印刷株式会社

## ■東京同窓会事務局

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-15-21

大森太田印刷(有)内

電話 03-3765-1779 FAX 03-3766-1228

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会